

グローバル通信

長崎県立口加高等学校グローバルコース 第14号 平成30年10月29日

第7回島原半島ユネスコ世界ジオパーク 高校生研究発表大会 出場

10月20日(土)に雲仙岳災害記念館で行われた、島原半島ユネスコ世界ジオパーク高校生研究発表大会に、グローバルコースから3グループが参加しました。今年度初めての参加でしたが、他校の三年生の中にありながら、2年生主体のチームが堂々と、自分たちの研究成果を発表してきました。結果、優秀賞を環境班が、審査委員特別賞をビジネス班が、研究奨励賞をジオ看板班がそれぞれ受賞しました。

【 優秀賞 】 **持続可能な環境を口之津から ～与茂作川の復活を目指して～**
環境班 (林田七海 ・ 塩田夏詩江 ・ 井上祐香)

【 審査委員特別賞 】 **南島原・島原半島ジオパークの観光資源を利用したツアー事業**
ビジネス班 (大崎希生 ・ 川上琴鈴 ・ 林田摩耶 ・ 嶋田希海香)

【 研究奨励賞 】 **看板で伝える**
ジオ看板班 (太田千愛 ・ 森田達也 ・ 梅野美咲)



【発表要旨】

☆環境班 『口之津町にある与茂作川は、「島原の乱」で陣中旗を描いた山田与茂作が、絵筆を洗ったとされる川である。この川はかつてホタルが舞うきれいな川だったが、ウナギの捕獲のために毒が流され、浄水場からはヘドロが流出するなど、環境が悪化した。そこで地域の方々が浄化作用のある植物（セキショウ）を植えたり、清掃活動を行ったりしてきた。私たちも小学6年生の時に川をきれいにするためにEM泥団子を投入したが、川がきれいになったという実感はない。そこで高校生になった私たちは、ジオパークの一部でもある与茂作川の自然環境を改善する研究を始めた。この研究を通じて、大好きな地元を綺麗なまま後世に残したい。現在、川の自然環境を把握するために、植物や生物調査および pH や残留塩素濃度などの水質分析を行っている。現地調査ではヘドロや油などがみられ、とても綺麗とはいえない。当日は、与茂作川の現状について発表した。』



☆ビジネス班 『南島原市には観光資源が多く存在するが、観光客に若者が少ないように感じる。原城を巡るツアーにモニターとして参加した際、説明中心で、歴史は学べても「おもしろい」「楽しい」部分が足りないように感じた。そこで、若者向けのツアーを企画することで、原城やジオパークなど、南島原の魅力を多く知ってもらえるのではないかと考えた。若者の注目を引くため、「VRで島原の乱を体験」「廃校を活用したキャンプ」「スタンプラリーでキャンプの食材集め」など、体験や活動を多く取り入れた内容を中心に、南島原市の特徴や歴史についても学べるようなツアーを作成した。1つのビジネスとして、収支や利益も実際に行うことを想定して計算した。地元の食材や地域の人材を活用し、コストを抑えられるという前提ではあるが、少ない年数で黒字を出せるという予想を立てることができた。今後も、南島原やジオパークの魅力を多くの人に伝える方法を考えていきたい。』



☆ジオ看板班 『私たちの故郷は、2009年に日本で初めて世界ジオパークに認定された場所である。昨年、授業の一環で再認定審査に関わらせていただいた。その活動の中で、今まで気づかなかった様々な魅力に気づき、この場所を、多くの人に知って欲しいと考えた。しかし、観光で訪れる人も少なく、少しずつ衰退しているように感じる。そこで、私たちは、訪れてくれた人たちへもっと故郷の良さを伝えたいと情報発信について、中でも各地にある看板に目を付けた。まずは、多くの人が集まる土石流被災家屋保存公園において、看板がもたらす効果を調べ、より人々が望む情報が提供できる看板を提案したいと考えている。みずなし本陣深江様にご協力いただき、モニター調査を行った結果、様々なご意見をいただき、それを基に看板を考案した。同様のモニター調査を続け、どのような看板が、上手く情報を伝えられるのか、私たちの研究結果を発表したいと思う。』

